

現実味を帯びる FRB のテーパリング開始

本稿は、PGIM フィクスト・インカムのリード・エコノミストである Ellen Gaske、およびチーフ・インベストメント・ストラテジストである Robert Tipp が 9 月 22 日に執筆したブログ “MARKETS (AND THE FED) GETTING REAL ABOUT TAPER” の内容を PGIM ジャパン株式会社が要約したものであり、情報提供のみを目的として作成されたものです。

<要旨>

- テーパリングの発表は、次回連邦公開市場委員会（FOMC）の 11 月会合となる可能性を示唆。
 - 景気回復が順調に進めば、PGIM フィクスト・インカムの想定通り、2022 年半ばまでにテーパリングが終了する見通し。
- 今年の成長見通しは下方修正される一方、来年については上方修正（3.3% → 3.9%）。
 - 足元の成長の足枷は、来年にかけて一部緩和される見通し。
- インフレの高進については、引き続き一過性という姿勢を維持。
 - FRB によるコア PCE の予測中央値は 2024 年にかけて 2%に収斂。
- ドットプロットは予想よりもタカ派寄りで、2022 年末までの初回利上げを示唆。
 - 2023~24 年の予測中央値はそれぞれ 1.0%、1.8%と、PGIM フィクスト・インカムの想定以上の数値を示す。
- 市場は FRB がインフレを抑制しつつ、軟着陸を達成することに確信を高めている。
 - 中期の TIPS 利回りは上昇する一方、長期の反応は限定的。
 - 市場が示す期待インフレ率はカーブ全体を通じて低下。

データの出所(特に断りのない限り)：PGIM フィクスト・インカム、2021 年 9 月 22 日現在。

当レポートは、金融機関、年金基金等の機関投資家およびコンサルタントの方々を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

留意事項

本資料に記載の内容は、PGIM フィクスト・インカムが作成した“MARKETS (AND THE FED) GETTING REAL ABOUT TAPER”をPGIMジャパン株式会社が要約したものです。PGIMフィクスト・インカムは、米国SEC の登録投資顧問会社であるPGIM インクのパブリック債券運用部門です。

本資料は、プロの投資家を対象としたものです。すべての投資にはリスクが伴い、当初元本を上回る損失が生じる可能性があります。

本資料は、当グループの資産運用ビジネスに関する情報提供を目的としたものであり、特定の金融商品の勧誘又は販売を目的としたものではありません。また、本案内に記載された内容等については今後変更されることもあります。

本資料に記載されている市場動向等は現時点での見解であり、事前の通知なしに変更されることがあります。また、その結果の確実性を表明するものではなく、将来の市場環境の変動等を保証するものでもありません。

本資料に記載されている市場関連データ及び情報等は信頼できると判断した各種情報源から入手したのですが、その情報の正確性、確実性について当社が保証するものではありません。過去の運用実績は必ずしも将来の運用成果等を保証するものではありません。

本資料は法務、会計、税務上のアドバイスあるいは投資推奨等を行うために作成されたものではありません。

当社による事前承諾なしに、本資料の一部または全部を複製することは堅くお断り致します。

“Prudential”、“PGIM”、それぞれのロゴおよびロック・シンボルは、プルデンシャル・ファイナンシャル・インクおよびその関連会社のサービスマークであり、多数の国・地域で登録されています。PGIMジャパン株式会社は、世界最大級の金融サービス機関プルデンシャル・ファイナンシャルの一員であり、英国プルデンシャル社とはなんら関係がありません。

PGIMジャパン株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第392号
加入協会 一般社団法人日本投資顧問業協会、一般社団法人投資信託協会
PGIMJ84771